

「交通渋滞」の少ない未来都市の実現は MaaSの進化とともに

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

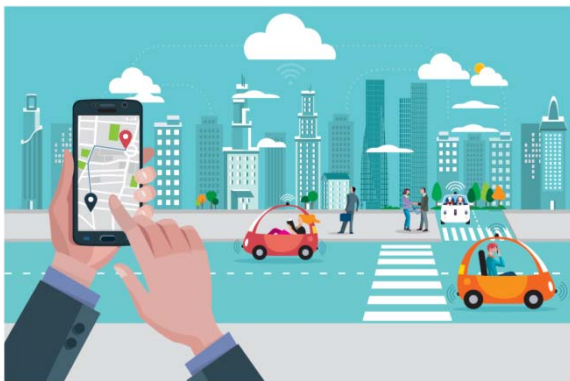
都市部への人口集中は、今や世界のトレンドとなっています。国連の予測によると、2050年には人類全体の約3分の2に当たる60億人以上が都市に住むと見込まれています。そして、都市部への人口集中によって生じる大きな社会的課題である「交通渋滞」を解決する取り組みとして期待されているのが、MaaS（マース、Mobility-as-a-Service：サービスとしてのモビリティ）です。

MaaSと一口にいても、交通渋滞緩和に向けては、いくつかのアプローチやステップがあります。そのひとつが、空いている座席を有効活用するライドシェアです。世界の主要都市では「ウーバー（米国）」のように、ドライバーと乗客を結びつける配車サービスが急速に普及しています。MaaS先進国のフィンランドでは、アプリを使い、目的地を検索するだけで、公共交通機関やライドシェア、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなどの組み合わせから、最適なものを選び、料金を月額制で支払うサービスがすでに始まっています。なお、中国では、交通渋滞の緩和などをめざし、ライドシェア大手が、政府と協力し、AI（人工知能）を駆使した交通システムの開発を進めています。

そして、もうひとつが「自動運転」です。自動運転が実現・普及すれば、交通事故が減るほか、無駄なブレーキが生む自然渋滞も大きく緩和されるとみられます。また、先進国を中心に高齢化・少子化が進む中、運転手不足という別の課題の解決策にもなります。自動運転の開発をめぐるのは、現在、自動車メーカーにとどまらず、IT業界からも次々と企業が参入し、熾烈な開発競争が繰り広げられています。そして、近い将来、自動運転が実現すれば、まずは、自動運転タクシーによるサービスが開始されるとみられるほか、その先には、都市計画の中で、公共交通（鉄道、バス、地下鉄、タクシー）まで含めた交通サービスシステムが構築され、交通渋滞の少ない都市生活が近い将来、訪れるのではないかと期待されます。

スマートフォンという端末の普及とIT技術の進歩により、人々の生活が激変したように、MaaSがもたらすであろう未来都市には、新しい生活様式とともに、レストラン、小売、旅行、物流などのサービス面で、新しいビジネスチャンスが広がると期待されます。こうしたことから、MaaSをキーワードに、テクノロジーの進化に投資を続けることが、魅力的な投資機会を捉えるという意味でも、今後重要になると考えられます。

自動運転と交通サービスシステムの構築による、未来都市のイメージ



※写真およびイラストはイメージです。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。